

SHOW HEY シネマルーム

★★★

エイリアン コヴェナント

2017年・アメリカ映画
配給／20世紀フォックス映画・122分

2017(平成29)年10月1日鑑賞

TOHOシネマズ西宮OS

Data

監督：リドリー・スコット

出演：マイケル・ファスベンダー／
キャサリン・ウォータースト
ン／ビリー・クラダップ／ダ
ニー・マクブライド／デミア
ン・ピチル／カルメン・イジ
ヨゴ／エイミー・サイメツ
／ジャシー・スモレット／キ
ャリー・ヘルナンデス／ナサ
ニエル・ディーン／ガイ・ピ
アース／ローレイ・キング

■■■ショートコメント■■■

◆広大な宇宙を舞台に“完璧な生命体”との遭遇を描き、映画史上に金字塔を打ち立てた映画が『エイリアン』（77年）。その『エイリアン』シリーズの第6作に当たる本作は、「エイリアン」誕生の秘密が解き明かされる物語だが、私が観たのは『プロメテウス』（12年）一本だけ。（『シネマルーム29』230頁参照）

公式ホームページによれば、本作のイントロダクションは次の通りだ。

広大な宇宙を舞台に、“完璧な生命体”との遭遇を描き、映画史上に金字塔を打ち立てた「エイリアン」。ジェームス・キャメロン、デヴィッド・フィンチャーといったヒットメーカーを輩出した伝説的なシリーズの創造主、リドリー・スコットが自らメガホンを執った最新作は、ついに“エイリアン誕生”の秘密が解き明かされる衝撃的な物語だ。滅びゆく地球を後にして、宇宙の楽園を発見したはずの移住船クルーに未知の新種エイリアンが牙を剥き、観る者はシリーズ最大のミステリーと極限のスリルを体感するとともに、新たな伝説の目撃者となる！

◆人類初の大規模な宇宙への移住計画のため、地球を旅立った宇宙船コヴェナント号。本作はそんな設定だが、近時この手の設定の映画は多い。『パッセンジャー』（16年）（シネマルーム39未掲載）や『スターシップ9』（17年）（『シネマルーム40未掲載』）もそんな設定だった。

『エイリアン』全体のストーリーは複雑。したがって、「エイリアン」の誕生秘話を描く本作も複雑だ。公式ホームページによれば、本作のストーリーは次の通りだ。

人類初の大規模な宇宙への移住計画のため、滅びゆく地球を旅立った宇宙船コヴェナント号は、コールドスリープ中の2000人の入植者を乗せ、移住先の惑星オリガエ-6を目指していた。その航行の途中、大事故に見舞われたコヴェナント号は女性の歌声が混じった謎の電波をキャッチし、発信元である惑星へ向かう。その神秘的な惑星は、女性乗組員ダニエルズ（ウォーターストーン）にとっても、人類の新たな希望の地に思えた。はたしてダニエルズの前に現れた完全な知能を持つアンドロイド（ファスベンダー）は敵か、それとも味方か。そしてエイリアン誕生をめぐる驚愕の真実とは何なのか。コヴェナント号にもエイリアンの脅威が迫るなか、ダニエルズは哀しみを乗り越え、あまりにも過酷な運命に立ち向かっていくのだった……。

このように、コヴェナント号は本来の移住先である惑星オリガエ-6ではなく、謎の電波の発信元である、「ある惑星」で途中下車したが、そんな予定変更の可否は・・・？

◆本作冒頭、ピーター・ウェイランド（ガイ・ピアース）と新型アンドロイドのデヴィッド（マイケル・ファスベンダー）とのクソ難しい「哲学論争」がある。このデヴィッドは『プロメテウス』に登場したアンドロイドで、本作にも再度登場するのだが、本作のコヴェナント号にも同じ顔のアンドロイドが登場しているので話はややこしい。そのあたりのストーリーは私には理解不可能だが、詳しく知りたい人はシリーズ全作の詳しい解説を参照されたい。

コヴェナント号の乗組員は船長のブランソン（ジェームズ・フランコ）、人類移住計画の責任者の女性ダニエルズ（キャサリン・ウォーターストーン）、アンドロイドのウォルター（マイケル・ファスベンダー（二役））たち。そして、コヴェナント号の乗組員は、母船に残る者たちと、母船から「ある惑星」に降り立つダニエルズたちの2つのグループに分かれるが、さて、乗組員たちの運命は？

◆本作は、ハリウッド映画の人気作品ながらR指定。つまり、15歳以下は観ることができない。それはなぜ？それは「ある惑星」に降り立った隊員の身体の中に入り込んだ“異物”が瞬間に成長し、エイリアンとして登場してきたところから明白になる。こりゃ、一体ナニ？このエイリアンの姿に、私はいい加減うんざり・・・。

2017（平成29）年10月6日記